

資料5 鳥獣害の把握及び評価に係る既存資料

林野庁

ホーム > 分野別情報 > 森林計画制度 > 森林生態系多様性基礎調査 > 調査結果 > 野生鳥獣による森林被害の状況(第3期)

野生鳥獣による森林被害の状況(第3期)

森林生態系多様性基礎調査では、獣害と野生動物の生息情報についても調査しています。

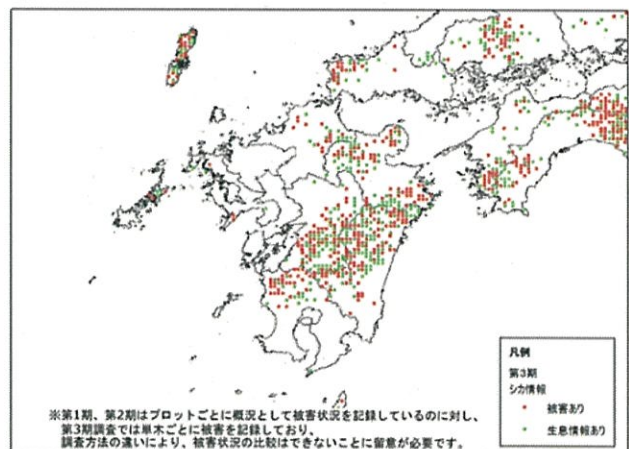
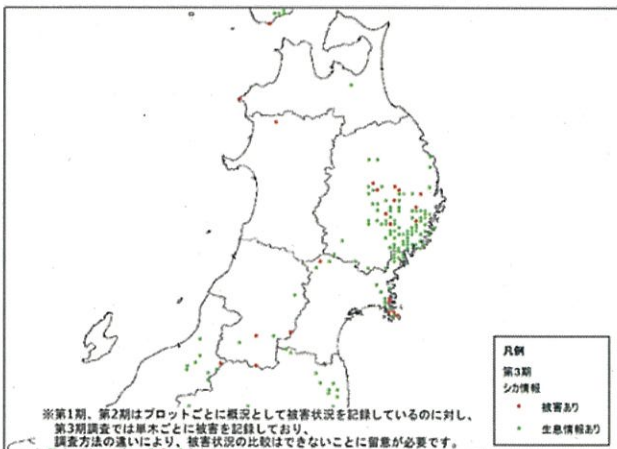
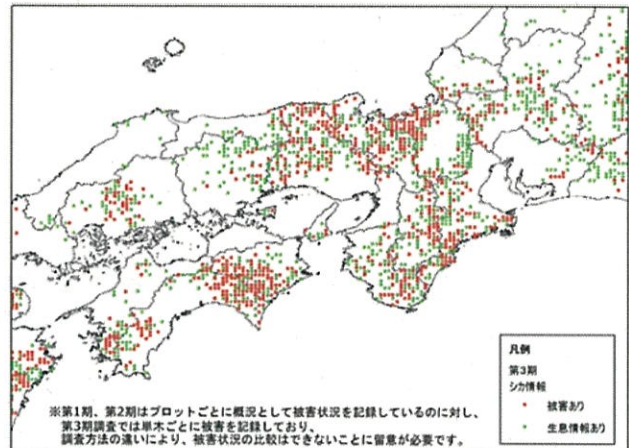
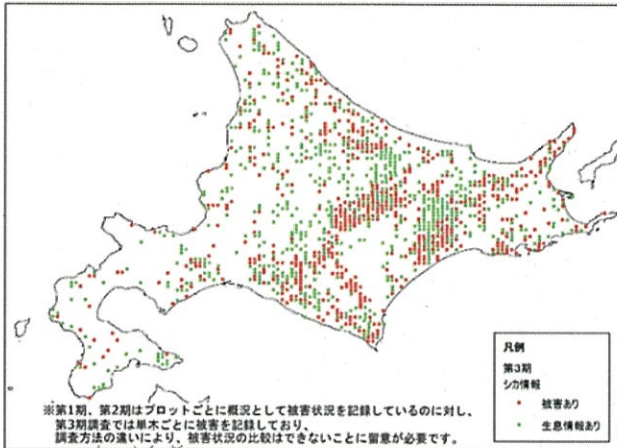
この調査結果を用いることにより、野生鳥獣による森林被害の分布図を作成し、被害状況を継続的にモニタリングすることが可能です。

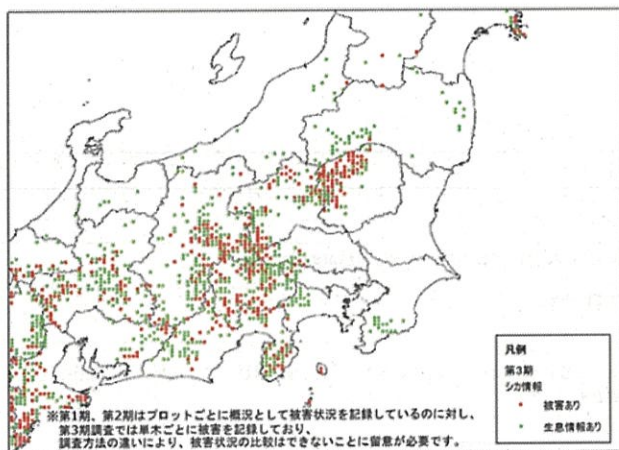
ここでは、シカについて、その被害[※]と生息が確認された調査プロットの分布状況を示しています。

※被害が確認された調査プロットとは、ここでは樹皮の「剥皮」及び枝葉の「食痕」が記録されたプロットのことをいいます。

(シカの被害状況及びシカの生息状況については、第1期、第2期はプロットごとに概況として被害状況等を記録しているのに対し、第3期調査では単木ごとの被害等も記録しており、調査方法の違いにより、被害状況等の比較はできないことに留意が必要です。)

	シカの被害が確認された調査点数	シカの生息が確認された調査点数	合計
第3期	2,890	1,089	3,979





[調査結果へ](#)

※ [森林生態系多様性基礎調査 TOPへ](#)

— お問い合わせ先 —

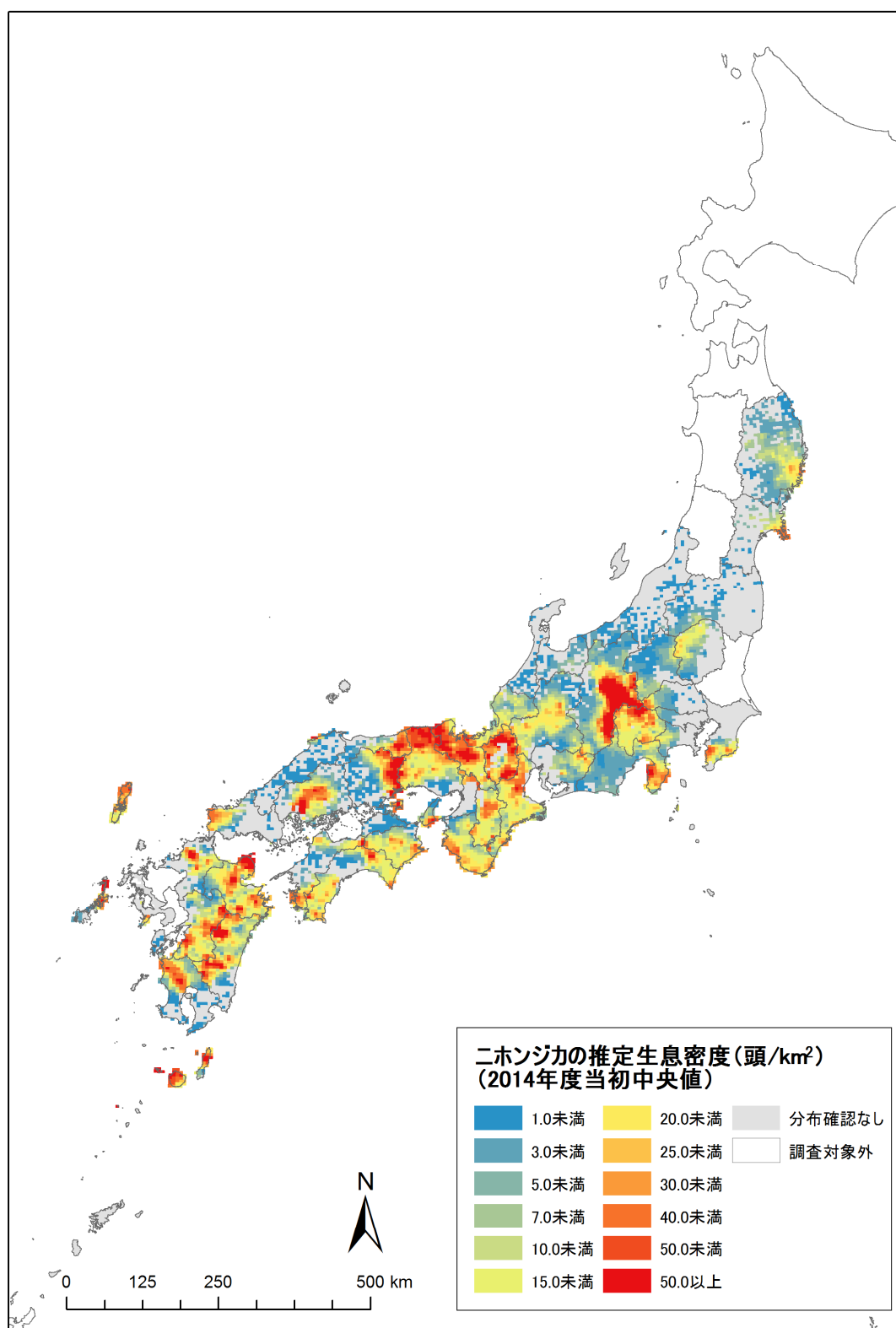
森林整備部計画課
 担当者: 全国森林計画班
 代表: 03-3502-8111(内線6144)
 ダイヤルイン: 03-6744-2300
 FAX: 03-3593-9565

[ページトップへ](#)

Copyright: 2007 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
 〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話: 03-3502-8111(代表)

林野庁

出典：林野庁HPより
 森林生態系基礎調査による調査結果
 野生鳥獣による森林被害の状況(第3期)



ニホンジカ密度分布図(全国)

2014年度当初：中央値

エゾシカ影響調査・簡易チェックシート(人工林用)

場所	管理署名	森林事務所名	林班	小班
植付面積	ha	植付本数	本/ha	植付樹種
植付年	年	近年の施業	平均胸高直径	平均樹高
調査日	年 月 日	時~時	前年の狩猟	法的規制
周辺環境	<input type="checkbox"/> 天然林と隣接 <input type="checkbox"/> 人工林と隣接 <input type="checkbox"/> 沢を含む <input type="checkbox"/> 沢と隣接 <input type="checkbox"/> 畑と隣接 <input type="checkbox"/> 牧草地と隣接			

※以下の項目を記入するほか、当てはまるものにチェック を入れる。
 ※食痕等の判断については、意識しないで食痕等が目につくのは「多い」、探さないと食痕等が見つからない場合は「わずかにある」とする。
 ※樹皮剥ぎの「新しい」は、今シーズンの樹皮剥ぎ等を対象とする。

■A. 植栽樹種の痕跡

調査本数(本) 注)50本を目安に調査の対象とした本数を記入。

A1.新しい角こずりが見られる (約 本)

A2.樹皮の食痕が見られる (約 本)

A3.頂芽の食痕が見られる (約 本)

A4.シカによる幹折れの痕跡が見られる (約 本)



■B. 小径木(胸高直径5cm未満)

B1.小径木 見られる 少ない(目安:5本/100㎡以下) ない

B2.樹皮剥ぎ/角こずり 見られる(樹種:) (新しい / 古い)
 見られない

B3.高さ2m以下の下枝や萌芽 ある ほとんどない(目安:5本/100㎡以下) ない

B4.下枝の食痕 多い わずかにある ない 分からない



■C. 稚樹(高木になる木本種の樹高20cm程度から200cm程度のもの)

C1.稚樹 見られる 少ない(目安:5本/100㎡以下) ない

C2.食痕 多い わずかにある ない 分からない



■D. 林床植生(ササ類や草本類、A~C以外の木本類など全てが対象)

◆植生 ササ類主体 草本類主体 低木類主体 ()
 (注)主体とは林床のおおむね75%を占めている状態をいう。

D1.ササの現存量 密生している 散在している ない ・ササの種類()

D2.ササの枯死 枯れた稈がある 枯れた稈はない

D3.ササの食痕 多い わずかにある ない 分からない

D4.不嗜好植物の量 フッキソウ・シダ類・ハンゴンソウ等のシカが好まない草が多い(目安:30%以上)
 上記のような草は少ない(目安:30%未満) よく分からない



■E. シカの痕跡

E1.シカの痕跡 次のシカの痕跡等が見られる

痕跡はない シカ道 足跡 糞 骨・死体 角

E2.シカの鳴声 この林班周辺でシカの鳴声を聞いた 聞いていない

E3.シカの目視 この林班周辺でシカを見た(頭) 見ていない

E4.越冬地としての利用 利用している 利用していない 分からない



自由記述欄(シカの被食状況に関することで、気がついた点があれば記述する)

出典:「森林における鳥獣被害対策のためのガイド」
 (林野庁森林保護対策室、平成24年3月)
 北海道森林管理局の作成例

H26 エゾシカ森林被害マップについて

趣 旨

- エゾシカによる森林被害対策を効果的に進めるためには、国有林と民有林が連携し一体的に取り組むことが重要。
- このため、国有林・民有林・試験研究機関のエゾシカ担当部署で構成する「エゾシカ森林被害対策連絡会」（以下、「連絡会」）を設置（H26年2月）し、連携を強化。
- 連絡会の取組の一つとして、国有林と民有林それぞれの森林被害の状況を一元化し“見える化”した「エゾシカ森林被害マップ」を平成25年度より作成。

被害マップの内容

- エゾシカ森林被害マップ（以下、被害マップ）は、国有林、民有林（道有林含む）で、平成26年度に実施したエゾシカによる森林被害調査結果のうち、人工林の本数被害率について図示。

※調査は森林整備事業や林況踏査時等を活用し、できる範囲で現地調査を実施した箇所のみでの報告であるため、森林全体を調査したものではない。

- 被害マップは、被害の発生状況が一目でわかるよう3段階に色分けして表示しており、各地域における防除対策やエゾシカの捕獲対策のためのツールとして活用。
- **被害マップ件数**（調査：平成26年4月1日～平成27年3月31日）（件）

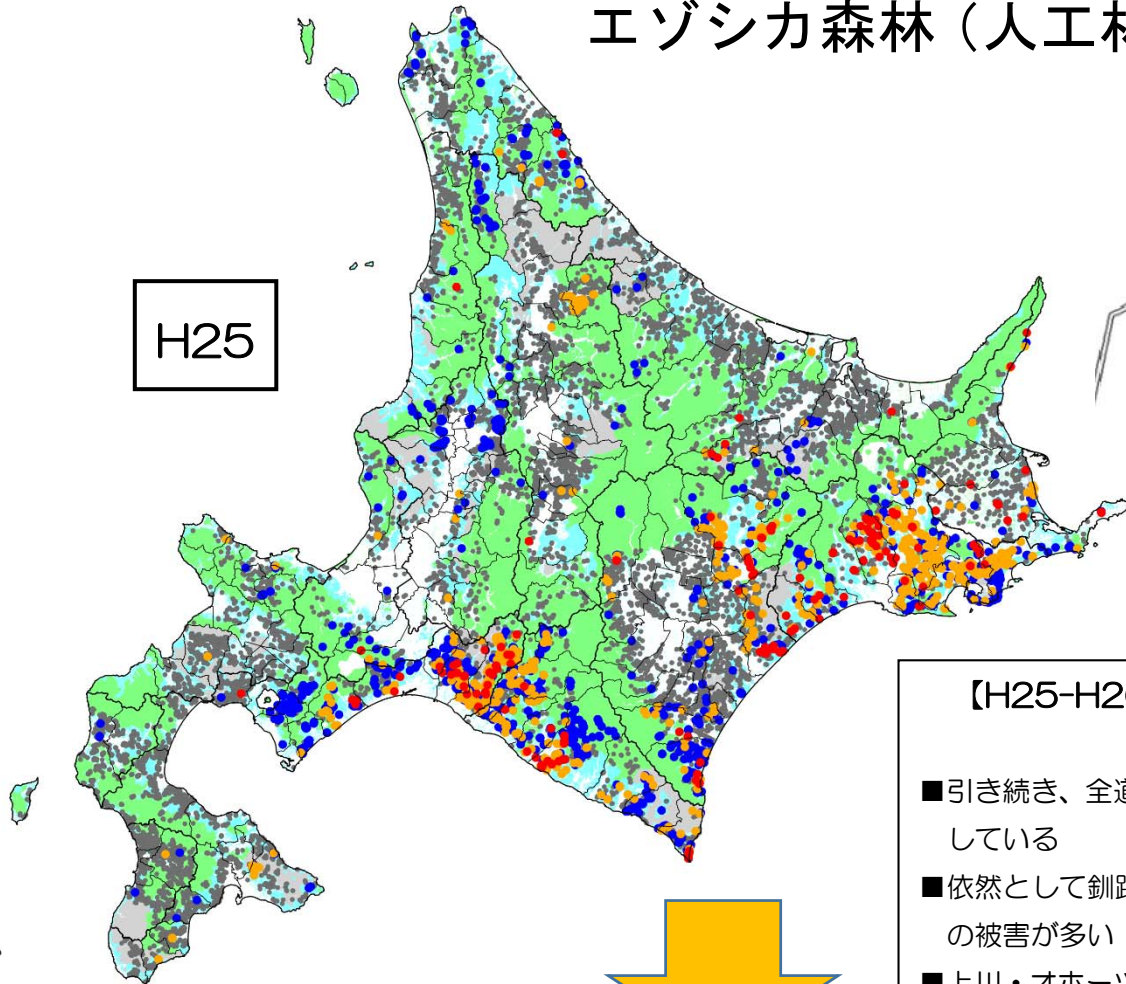
区 分	国有林	民有林	合 計
調査箇所（人工林）	2, 3 1 2	28, 0 5 2	30, 3 6 4
うち被害有り	5 3 6	4, 0 2 5	4, 5 6 1

活用方法

- 森林被害発生状況の把握・確認
 - ・各地域別における森林被害発生状況の把握・確認 等
- 効果的な防除対策の実施
 - ・各地域の被害発生状況に応じた防除・予防対策（忌避剤散布、侵入防止柵、枝条巻き、保護チューブ等）の実施 等
- 効果的なエゾシカ捕獲の実施
 - ・被害が多い地域における捕獲（狩猟、許可捕獲）の実施
 - ・市町村が実施する一斉捕獲実施箇所の選定
 - ・捕獲を目的とした林道除雪箇所等の選定 等
- 今後の活用
 - 他部局、大学・試験研究機関等と連携し、それぞれが保有する地図情報を組み合わせるなど、より効果的な被害対策の展開を図る。

エゾシカ森林（人工林）被害マップ

H25

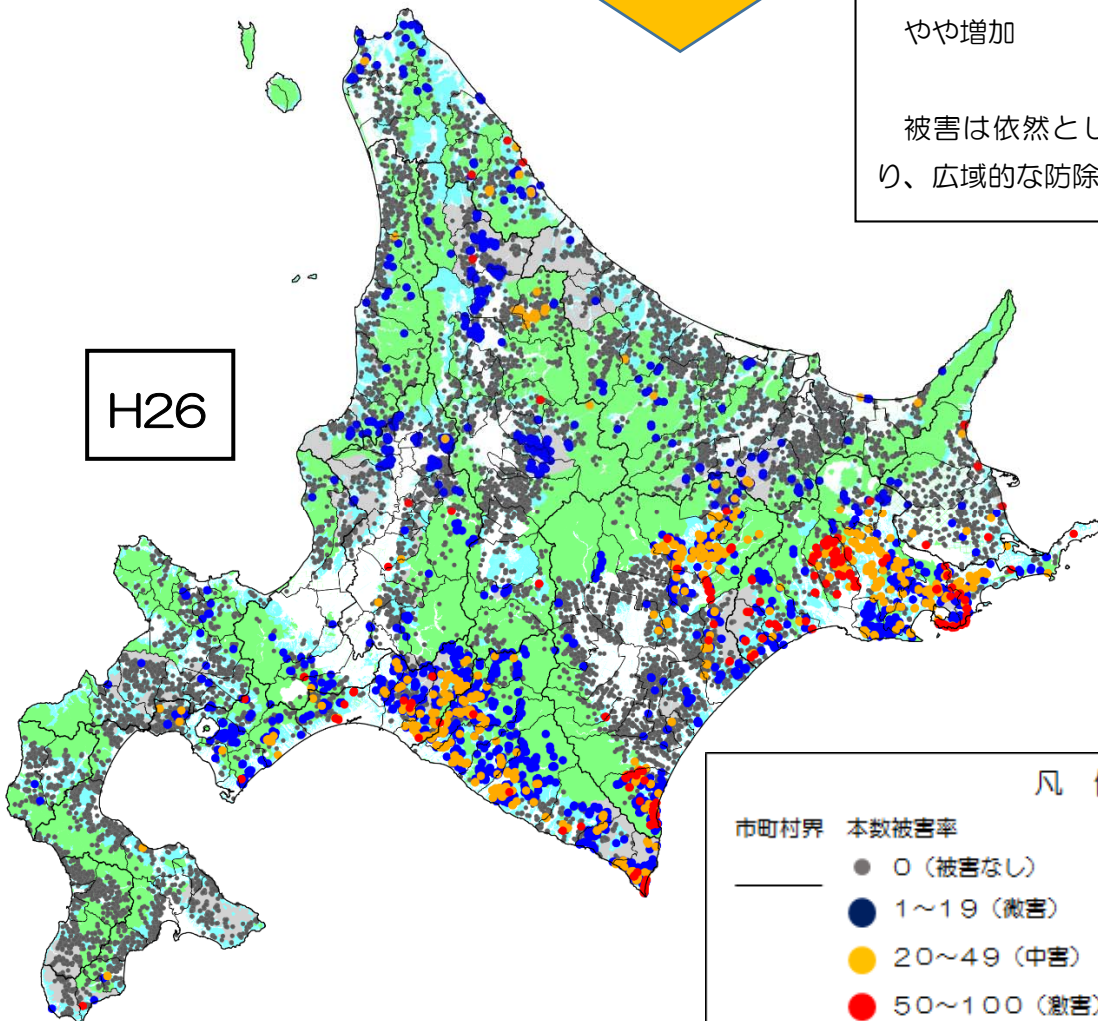


【H25-H26の被害状況比較】

- 引き続き、全道的に被害が発生し、拡散している
- 依然として釧路・十勝・胆振・日高地域の被害が多い
- 上川・オホーツク地域は、微害の箇所がやや増加

被害は依然として全道的に発生しており、広域的な防除・捕獲対策が必要

H26



市町村界		凡例		
市町村界	本数被害率	国有林	道有林	一般民有林
—	● 0 (被害なし)	■	■	■
—	● 1~19 (微害)	■	■	■
—	● 20~49 (中害)	■	■	■
—	● 50~100 (激害)	■	■	■

表-1 森林被害度調査診断指標例

被害度調査

指標等		診断事象	低	中	強	激甚
			被害度 1	被害度 2	被害度 3	被害度 4
調査	指標	下層植生	食み痕程度で被害度・種数とも正常	不嗜好性植物がやや優占	不嗜好性植物のみ	裸地か、少数
		樹皮剥ぎ	樹皮剥ぎはほとんどなし	一部の小班で軽度な樹皮剥ぎ	樹皮剥ぎ小班が多い	小班で50%超す被害
		土壌流出	森林内の階層構造発達し、下層植生の被害度が極めて高い	下層植生の被害度が高く、土壌流出は少ない	下層植生が少しあり、表面のみの侵食	裸地に雨裂あり、土砂流出が激しい。溪流に泥分多い
		採食ライン(ディアライン)	ない	まだ明確なラインは出ていない	森林内にくっきり	
		その他				

総合評価

診断	被害程度	被害度 1	被害度 2	被害度 3	被害度 4
	内容	若干の影響に留まる	一部の小班の点在、全体的に影響少ない	森林全体に影響	森林全体に激しい影響

出典：「森林における鳥獣被害対策のためのガイド」
(林野庁森林保護対策室、平成24年3月)